
炎髪灼眼の討ち手と蒼眼の死神

境界

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

炎髪灼眼の討ち手と蒼眼の死神

【Nコード】

N2286P

【作者名】

境界

【あらすじ】

遠野志貴（シャナの世界に住んでいる志貴）はいつも通りに日常を送っていた。だが、持病の貧血で学校を早退した時に非日常へと巻き込まれる。

初めまして今作品が処女作品となる境界です。

皆さんの素晴らしい作品に心が奮い立ち、書くことに決めました。

最近、書き始めた故まだまだ未熟者ですが頑張りますので宜しくお

願
い
し
ま
す。

序・封鎖空間・（前書き）

シヤナの世界の御崎市と月姫の世界の三崎町、名前同じだから志貴を登場させてみようと思い、作りました。

序・封鎖空間・

何かを斬るような嫌な音…どこからか高笑いや断末魔のような叫び声も聞こえてくる。

そこは、世界から隔絶された場所であった。

全体が暗く、周りには活動が停止している人間が数多くいる。

そのような世界に一人の少年と巨大なキューピー人形のような怪物がいた。

少年の右手には柄に七夜と彫られた短刀・ナイフ・が握られていた。少年が地面を蹴りとてつもない速度で怪物へと迫り、ナイフを振り下ろす。

その瞬間、怪物の腕はいとも簡単に切り落とされた。そこで、怪物は大きく口を開け、少年を呑み込もうとする。

それを一瞬の内に背後へと回り、ナイフを背中に突き刺す。すると、怪物の身体が青く灯り消え去っていった。

そして、少年は頭を抱えて笑い出す。

ギラリと妖しく光る青い瞳が少年の異質さを物語っていた。

序・封鎖空間・（後書き）

この世界の志貴は最初から御崎市に住んでいます。

一話・日常・（前書き）

出来上がりが気にいらなかったもので、修正しました。

一話・日常・

志貴 side

御崎高校に入学して数日が経った。

少し慣れ始めた学校へと歩を進める。

校門を通り抜け、玄関に入ろうとした時、背後から声を掛けられた。

「よお、遠野」

「遠野、おはようさん」

「ああ、おはよう佐藤、田中」

話しかけてきた二人は俺の中学時代からの友人である。

中学時代、誰に対しても冷たい態度をとっていた俺は孤立していた。そんな俺に対して唯一、コミュニケーションをとってきたのがこの二人だ。

佐藤と田中とはそれ以来の付き合いだ。

佐藤はだるそうに、首を鳴らす。

「学校かったりいなあ」

「まあそう言うなって佐藤」

「ははは……」

「そういや、遠野、お前って何で8年間も有馬の家に預けられてたんだ？」

「……え」

突然の事に俺は反応することができなかった……

「いや、なんでもない……忘れてくれ」

そして、俺たちのクラス（1 - 2）に辿り着いた。すると、すぐにチャイムが鳴り響く。

「……連絡事項は以上だ」

ホームルームが終わり、担任の教師が去っていく。そこで、一限目の始まりを告げるチャイムが鳴る。

何で有馬の家に預けられることになったのは正直なとろ自分でもよく分からない8年前のあの時、俺は普通なら死ねくらいの交通事故にあっただろう。

なんとか一命は取り留めたものの慢性的な眩暈や貧血、その他諸々のことで病院の世話になるようなそんな子どもだった。

「おい、遠野これ解いてみる」

「はい」

質問に答えるべく立ち上がる……だが、そこで眩暈がした。

あ……まず……

ふらつく体を支えることができず、跪いてしまう。

その拍子に眼鏡をおとししまった。

すると、「線」が視界に入ってきた。

気持ち悪い……

酷く気持ち悪くなってくる。

その上、頭痛までしてくる。

これ以上視るのが怖くて必死に探す。

そして、なんとか見つけることができ眼鏡をかけ直す。

すると先程まで見えていた気分を酷く悪くさせる線は嘘のように消えてなくなった。

そこで、駆け寄ってきた佐藤に支えられながら立ち上がる。

「大丈夫か？……保険室行くか？」

「いや……いい」

佐藤に問われるが俺はそれを断り立ち上がる。

「体のことは担任から聞いている。辛かったから帰っていいんだぞ。」

そして、俺は家に帰ることに決めたのだった。

一話・日常・（後書き）

誤字脱字等がありましたらご指摘下さい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2286p/>

炎髪灼眼の討ち手と蒼眼の死神

2011年10月8日03時47分発行